

◆ タイトル ◆

第2回 総合診療塾 患者中心の医療の方法 2015.7.6

◆ 内容の概要 ◆

患者中心の医療の方法(PCCM: Patient-Centered Clinical Method)とは、総合診療医が身につけるべき臨床技法のひとつである。レクチャーでの概要説明、寸劇や実際の症例の共有などを通じて、グループごとにディスカッションを行いながら理解を深めた。

◆ 総合診療医にいかに関与するか ◆

プライマリ・ケアの現場では、生物学的なアプローチのみでは対処できない事も多く、心理社会的な要素を効率よく診療に取り入れる必要がある。PCCMとは、医療者が患者を背景も含めて十分に理解し、患者も医師の説明を理解した上で健康問題の解決に向けて協同していく技法である。これはプライマリ・ケアの診療のコアとなり、患者満足度、健康指標、医療機関の利用などにおいて好影響を及ぼすと言われているため、総合診療医として確実に身につけておくべきスキルである。



◆ 内容の詳細 ◆

1、全体スケジュール

時間	内容
18:00-18:30	導入、寸劇の供覧とディスカッション
18:30-19:20	レクチャー、症例提示
19:20-19:30	振り返り

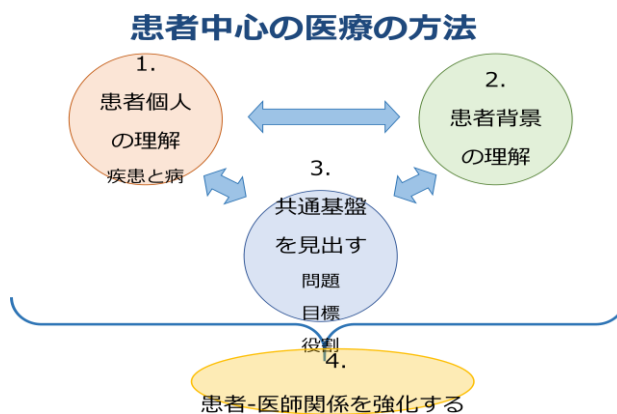
前半は日常で良くありそうな診療風景の寸劇をみてディスカッションを行い、診察のイメージを持ってもらうようにした。後半にPCCMについて

レクチャーを行い、最後に実際の症例を共有し、振り返りを行い終了となった。

2、内容

PCCMは、4つのコンポーネントからなる。従来の表現は若干難解なため、学生向けに分かりやすい言葉でまとめ直し、1. 患者個人の理解(疾患と病)、2. 患者背景の理解、3. 共通基盤の形成(問題・目標・役割)、4. 患者-医師関係を強化する、と説明した。

前半は、風邪の症例を診察するという寸





劇を用意し、供覧した。普通の診療と PCCM を学んだ後の診察を 2 回行い、問題点や、変化した点などのディスカッションを行った。実際に近い診察を見る事で、PCCM の重要な要素について、自然と理解が得られたようであった。

それを踏まえ、後半は各コンポーネントについてのレクチャーを行い、実際にどの様な点に着目して診療を行うか、例えば、病の聴取のキーワードである「かきかえ」や、共通基盤の形成の重要性について解説した。引き続き、いつ PCCM を使えば良いかと、実際に PCCM を参考にした症例を提示し、臨床の中でどの様に生かされているかの理解を深めた。

◆ 参加者の声 ◆

患者さんと話す時は感覚的に言葉を選んでいて、深く考える事はなかったのですが、今日のように理論を学び、落ち着いて考える事も良いと思いました。失礼のない範囲で患者さんに深くかかわっていこうと思います。恐れない！

(I.N さん 5 年生)

患者中心の医療について、分かりやすくレクチャーしてもらえた。現場での具体例が出てきた点や、ディスカッションのテーマも分かりやすかったです。共通基盤を見出す事、そしてその過程でどうすれば上手くいくのかを知りました。

(K.S さん 5 年生)



◆ 講師からのコメント ◆

低学年の学生さんにも参加して頂き、ディスカッションでも積極的に意見を出してくれました。PCCM は一見難しそうに見えますが特別なスキルではなく、どれも「言われてみれば当たり前」の事が言語化されているものです。地域での実習は、患者さんとの距離がぐっと近くなり、家族や生活などの背景も見えやすくなります。

どんな患者さんにも、その行動に理由と想いがある事を理解し、是非、一歩踏み込んだ実習を経験して欲しいと思います。

(総合診療グループ 山本由布)

